

項目	取組状況
教育	<p>◆ 平成28年度担当科目</p> <p>女性史（甲南女子大学）、倫理（和歌山工業高等専門学校）、ジェンダーと教育（立命館大学）、人権から見たジェンダーB（関西学院大学）、こどもの文化（帝塚山大学）、社会教育特殊講義A（佛教大学）、高齢者教育論H（佛教大学）、ジェンダー（佛教大学通信教育課程スクーリング）、生涯学習概論（佛教大学通信教育課程レポート採点）</p> <p>◆ 担当科目の取組状況（工夫・改善した点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師として担当した科目は多岐にわたるが、いずれも人の一生や生活を歴史および社会との関わりで考察するという点で共通しており、自身の研究内容を織り交ぜつつ、できるだけ学生にとって身近で関心をひくようなテーマを具体的に取り上げるよう心がけた。 ・授業中は、教壇で一方向的に講義を行うのではなく、教室内を巡回し、学生とコミュニケーションをとりながら授業を進めた。また、グループワークやディスカッション、視聴覚教材等も積極的に取り入れ、それらを連動させるよう工夫した。 ・すべての担当科目においてリアクションペーパーを導入し、講義のたびに学生のコメントと教員からのコメントを交換・蓄積できるようにした。この取り組みを通じて、学生の意見やニーズを確認し、教材の内容や種類、授業形態等にできる限り配慮するよう努めた。 <p>◆ 特記すべき教育方法の実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【学生の専門・関心に寄り添った授業】 和歌山高専の授業では、学生が将来技術者や科学者になることを前提に、科学技術と社会や歴史との関係について重点的に取り上げ、学習のまとめとして学生の専攻分野や関心に沿ったテーマ（「人と環境にやさしい街づくり」、「人とともに生きる技術」）でのグループワークと発表を取り入れた。 ・【体験型学習】 帝塚山大学の「こどもの文化」では、実際に子どもと一緒に絵本を作成するワークショップを実施した。 ・【歴史や社会の出来事を我が事として捉えやすくする工夫】 甲南女子大学の「女性史」では、従来の「日本史」の描かれ方を映像で確認・共有したうえで、そこに登場しない女性たちの活躍や差別の歴史を対比的に検討できるよう工夫した。 また、老若男女が集う佛教大学通信教育課程のスクーリング「ジェンダー」では、講義の総まとめとしてクオータ制に関するディベートを行い、「様々な人の様々な意見を取り入れることができ、とてもよかった」等の意見が多数寄せられたほか、「当たり前だと思っていたことが当たり前でなく、視点を変えて物事を見ることを学びました」という声もあった。
研究	<p>◆ 平成26～28年度における研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 著書 <ul style="list-style-type: none"> ・伏見裕子『近代日本における出産と産屋—香川県伊吹島の出部屋の存続と閉鎖—』勁草書房、2016年3月

- ・西岡正子編著『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から—』ミネルヴァ書房、2016年4月（担当：分担執筆、範囲：第2章「ジェンダーと歴史」、コラム12「子どもをもつ女性と職業」）
- ・白井千晶編著『産み育てと助産の歴史—近代化の200年をふり返る—』医学書院、2016年5月（担当：分担執筆、範囲：コラム5「産屋、ケガレ、出産の施設化」）
- ・由井秀樹編著『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』北樹出版、2017年4月（担当：分担執筆、範囲：第3章「出産—新しい生命を迎えるということ」、第4章「母子保健—母と子の「健やかさ」を考える」（共筆）、コラム10「児童虐待 喫緊の課題 社会が育児を担うしくみ」（共筆））

■ 学術論文執筆

- ・伏見裕子「生涯学習の視点からみる1960年代の女性の学びと労働—大阪女学院第二高校とYMCA 定時制高校生センターの軌跡から—」『女性学年報』第36号、2015年11月
- ・伏見裕子「伊吹島出部屋の存続と閉鎖をめぐる近代史」『香川母性衛生学会誌』第15巻第1号、2015年11月
- ・村田泰子・伏見裕子「明治期から昭和初期における小児科医の母乳への関心—『児科雑誌』の分析から—」『関西学院大学社会学部紀要』第124号、2016年3月
他3件

■ 学術講演会での発表

- ・伏見裕子「産屋の近代史—伊吹島出部屋の存続と閉鎖をめぐる—」第15回香川母性衛生学会学術集会、特別講演、2014年12月13日
- ・伏見裕子「大阪市立産院の成立と展開」社会事業史学会第43回大会自由論題報告、2015年5月9日
- ・伏見裕子「香川県伊吹島における出部屋の閉鎖過程とその意味」日本民俗学会第67回年会一般発表、2015年10月11日
- ・伏見裕子「香川県伊吹島における社会教育—1950年代を中心に—」関西教育学会第67回大会自由研究発表、2015年11月15日
- ・伏見裕子「日本における女性観と女性差別：女性のケガレから考える」桃山学院大学人権週間講演会、2015年12月8日
- ・伏見裕子「近代日本における出産と産屋—香川県伊吹島を中心に—」出生をめぐる倫理研究会公開研究会「出産をめぐる習俗と近代化—産屋の存続と閉鎖—」2016年3月26日
- ・伏見裕子「近代日本における産屋の変容」第29回長崎県母性衛生学会学術集会、特別講演、2016年6月12日
- ・伏見裕子「産屋の歴史から見るケガレと出産の施設化」シンポジウム「産み育てと助産の歴史：アジアの中の日本」リプロダクション研究会・静岡大学人文社会科学部主催、2016年7月16日

他3件

◆ 平成26～28年度における外部資金獲得状況

- ・「近現代日本における産屋の盛衰と女のケガレの変容」日本学術振興会（特別研究員奨励費）、研究期間：2013年4月～2015年3月、代表者：伏見裕子
- ・「近代日本における妊産婦保護事業と女性」公益財団法人世界人権問題研究センター（個人研究

	<p>費)、研究期間：2015年4月～2015年12月、代表者：伏見裕子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「瀬戸内海東部の離島漁村における出産文化の比較研究——伊吹島・走島を事例として」福武財団（瀬戸内海文化研究・活動支援助成）、研究期間：2015年4月～2016年3月、代表者：伏見裕子 <p>◆ 学会などでの受賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スミセイ女性研究者奨励賞「発達障害の早期発見をめぐる歴史と意味—母子保健との関連を中心に—」住友生命保険相互会社、2017年3月
<p>社会貢献</p>	<p>◆ 平成26～28年度における公開講座・出前授業の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ジェンダーと法：女性の身体と健康をめぐる日本の法制史」桃山学院大学「専門演習A」、2014年11月7日 ・「ジェンダーの視点で社会をみると…？—子ども向けテレビ番組を手がかりとして—」甲南女子大学「多文化コミュニケーション入門」、2015年6月2日 ・人権大学講座「ワークショップ—女性差別撤廃条約を学ぼう—」公益財団法人世界人権問題研究センター主催、講師：吉田容子、軽部恵子、米田眞澄、伏見裕子、2015年8月31日 ・人権大学講座「フィールドからみる女性の身体と習俗」公益財団法人世界人権問題研究センター主催、講師：源淳子、伏見裕子、山下明子、2016年11月10日 <p>他3件</p> <p>◆ 平成26～28年度における学会などでの委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本女性学研究会『女性学年報』編集委員（2010年5月～現在） ・社会福祉法人「友遊福祉会」評議員（2016年3月～現在）